

コンコンとドアを

ノックして欲しいと願ひ

仲間と体験談をつづりました



ハイヤーパワーの導き

あやめ

私が家族会に繋がったのは長男の二回目の大麻での逮捕の翌日でした。一回目の執行猶予が明けて半年後の事でした。夜遅くに弁護士さんからの電話で知り、頭が真っ白になりました。どこか相談できるところはないのか；、と直ぐにネットで調べて家族会を知り電話しました。家族会で自助グループのミーティング会場を教えてください、その日のうちに藁をもすがる思いでミーティングに参加しました。

これからどうしたらよいか、不安で一杯でした。そんな中、先行く仲間には先ずは、私が元氣にならないといけないこと、その為には出来るだけ多くのミーティングに通ってみるようにと云ってもらいました。それからミーティングに通い、同じ薬物依存症の問題を抱えている先行く仲間の方々の話を聞かせてもらっているうちに少しずつ元氣をもらい、笑いながら息子の事を話せるようになっていきました。

「大麻は薬物ではなく薬草、煙草の方が何倍も害がある」という息子。息子からの手紙は毎回、出所後は家に帰らせてほしいと書かれています。このまま受け入れてしまったら私自身がしんどいことは分かっています。それでも仕事も帰る所もない息子が不憫で「受け入れることが出来ない」と伝えることが、なかなかできませんでした。仲間に相談し、※スポンサーに毎日電話で相談にのってもらいました。「タフラブⅡ愛をもって手放す」手放す愛、見守る愛。息子の持てる力を発揮し、自立して生きて行けるように、手を出さない、



手を貸さない。この言葉に心から共感することができ、今迄、私が息子の為にしてきた事は、共依存で息子の自立を妨げていたことに気づかせてもらえました。「息子は息子の人生、私が背負うことはできません」それを息子に伝えることができました。

出所した息子と距離を置いて生活できている今、これでよかったです。迷いや不安がよぎった時、心配することから信頼する事へと※ハイヤーパワーに祈ります。相談できる※スポンサーや先行く仲間がいる事が何よりも安心です。

家族会から自助グループへ繋がれた事、ひとりではないと思える心地よい場所に導いても
らえた事、全てハイヤーパワーに心から感謝です。

用語の説明

ハイヤーパワー

自分自身を超えた、自分よりも偉大だと認められる「力」。
薬物依存に無力であるからこそ、自分を超えた大きな力に自分をゆだねている。
その力についてどう解釈するかはまったく各人に自由に任されている。

スポンサー／スポンサーシップ

回復の十二ステッププログラムを実践するにあたり、メンバーはより経験のあるメンバーに相談し、助言や提案を示してもらう。その助言者をスポンサー、その関わりをスポンサーシップと呼んでいる。

回復の十二ステッププログラム

回復のプログラムとして提案されている十二のステップは、スピリチュアル（霊的）な特徴を持つ生きかたの原理。

フェローシップ

本来は仲間の集合体を指すが、ミーティングを離れた仲間同士の交流の意味で使われることが多い。